

地域社会学会会報

No.253 2026.9.1

地域社会学会事務局 Office of Japan Association of Regional and Community Studies
〒982-8595 名取市ゆりが丘4丁目10-1 尚絅学院大学 高木竜輔研究室内
TEL 022-381-3386(直) 郵便振替 地域社会学会 00150-2-790728
E-mail jarcs.office@gmail.com URL <https://jarcs.smoosy.atlas.jp/ja>

◆..... 〈 会報 253 号のトピック 〉◆

- 1) 『地域社会学会年報』第39集の自由投稿論文を募集しています。詳細は5ページをご覧ください。
- 2) 2026年度地域社会学会賞の推薦が始まっています。詳細は6ページをご覧ください。
- 3) ISA2027へのエントリーが始まっています。詳細は6ページをご覧ください。
- 4) 2026年度の会費納入をお願いします。2023年度よりSMOOSYによるクレジットカード決済を原則としています。振込用紙の送付は行っておりませんので、サイトよりご確認をお願いします。

目次

10月3日(土)開催の第2回研究例会ご参加のみなさまへのお知らせとお願い

1. 理事会からの報告
 2. 研究委員会からの報告
 3. 編集委員会からの報告
 4. 地域社会学会選考委員会からの報告
 5. 国際交流委員会からのお知らせ
- ほか、事務局からの報告とお知らせなど

2026年度 第2回研究例会のご案内

日時 2026年10月3日(土) 13:30~16:30

会場 東洋大学白山キャンパス6号館(詳しい教室は会員MLにて2日前にお伝えします)
(対面とTeamsによるハイフレックス形式)

※アクセス方法等は、開催2日前をめぐに、会員メーリングリストで配信します。

第1報告 前島訓子(愛知淑徳大学)

「淡路島にみる〈社会〉の再編：編み直され、組み直される社会」(仮題)

第2報告 林 凌(武蔵大学)

「ラディカル再考：1970年代淡路島における石油備蓄基地誘致反対闘争を事例に」(仮題)

10月3日（土）開催の第2回研究例会ご参加のみなさまへのお知らせとお願い

① 会場にご参加のみなさま

会 場 : 東洋大学白山キャンパス 6号館 東京都文京区白山 5-28-20

* 来場の際には入構証が必要になります。開催 2 日前をめぐに会員メーリングリストで画像をお送りしますので、そちらを印刷したものか、スマートフォン画面に表示したものを、入構の際にご提示ください。

* 会場の詳細に関しても、2日前に送る会員メーリングリストにて伝えます。

アクセス：白山駅（都営地下鉄三田線）徒歩 5 分／千石駅（都営地下鉄三田線）徒歩 8 分 本駒込駅（東京メトロ南北線）徒歩 5 分／千駄木駅（東京メトロ千代田線）徒歩 15 分

<https://www.toyo.ac.jp/about/introducing/access/>

*西門からは直接 6 号館に入れます。正門（バス停前）と南門からは、5 号館の井上田了記念館の隣のエスカレーターを降りて地下 2 階から 6 号館に入れます。

Wi-Fi 環境：当日会場にて接続先をご案内いたします。

＜会場周辺地図＞ （上記東洋大学公式サイト地図に加筆）



② オンラインでの参加のみなさま

今期より、諸事情により Zoom ではなく Microsoft Teams を用いております。

<事前の準備のお願い>

- ◆ 事前に Microsoft Teams のアプリをインストールしておいてください。インストール済みの方は、最新バージョンに更新しておいてください。
- ◆ Teams のアクセス方法等は、開催 2 日程度前をめどに、会員メーリングリストで配信します。
なお、当日になっても学会事務局からの案内メールが届かない場合には、事務局メール (jarcs.office@gmail.com) にご連絡ください。
- ◆ Teams の参加リンクは、他人に教えないでください。

<当日のお願い>

- ◆ 会議開始 5 分ほど前から入室できるようにします。ただし、直前の打ち合わせ等で入室可能時間が前後することがあります。
- ◆ 会議に入ったら、司会者と報告者以外は、マイクは「ミュート」にして、発言時のみ「ミュート解除」にしてください。ビデオはオンでもオフでも結構です。適切な操作がなされていない場合には、主催者がミュートにするなどの操作を行うことがあります。
- ◆ 表示名は、「フルネーム（所属）」に変更しておいてください。
- ◆ 研究例会は、研究委員会が記録用に録画する場合があります。接続・参加をもって録画に承諾いただいたものとみなします。研究委員会以外の方（報告者も含めて）が会議画面を撮影したり、録画・録音したりすることは禁じます。

<配布資料について>

- ◆ 報告者から当日配布資料があるときは、クラウドにアップしておきます。こちらのリンク先は例会 2 日前の事務局からのメールにてお伝えいたします。なお、アップする期間は当日限りとなります。なお、当日配布資料の再配布はありません。

<質問・発言について>

- ◆ 以下のいずれかの方法でお願いいたします。
 - ① Teams の「手を挙げる」機能を使用
 - ② チャットに質問内容を書き込む
 - ③ チャットに、質問がある旨を書き込む

<終了後の交流時間について>

- ◆ オンライン開催では交流時間を設けてきましたが、現在はハイフレックス開催のため、オンラインでの交流時間は設けておりません。

<当日の操作に関する相談窓口>

- ◆ 当日、「接続できない」などの不測の事態に備えて、操作に関する相談窓口を設けます。メールでご連絡ください。
- ◆ メールアドレス r_takaki [アット] shokei.ac.jp （[アット]を@にしてください）。

<問い合わせ先>

- ◆ 当日の操作に関すること以外は、研究委員長（平井太郎、of-hirai [アット] hirosaki-u.ac.jp （[アット]を@にしてください））までメールでお問い合わせください。

1. 理事会からの報告

(1) 2026 年度第 2 回理事会報告

2026 年度地域社会学会第 2 回理事会は、2026 年 7 月 26 日（日）の 10 時 30 分から 12 時 30 分まで、立教大学にて開催されました。ここでは、報告事項 8 件、審議事項として 7 件が議論されました。

出席（19 名、敬称略）

伊藤亜都子、齊藤麻人、齊藤綾美、阪口毅、庄司知恵子、新藤慶、祐成保志、高木竜輔、武田俊輔、田中里美、玉野和志、中澤秀雄、野坂真、原田峻、平井太郎、藤井和佐、丸山真央、三浦倫平、矢部拓也

審議事項は以下の通りです。

- ①会員異動（新入会員、その他）
- ②名簿における性別情報の掲載について
- ③会計年度のタイミングの移行について
- ④メーリングリストの Smoosy への移行について
- ⑤理事交通費の全額拠出について
- ⑥次回大会の準備状況について
- ⑦その他

ほか

●空席だった役職の選任について

空席だった役職の選任について以下のように承認されました。

- ・監事：吉野英岐会員（岩手県立大学）、齊藤康則会員（東北学院大学）
- ・社会学系コンソーシアム担当：山岸達矢会員（京都橘大学）
- ・ウェブ担当（非理事）：山口博史会員（徳島大学）

●2027 年度第 52 回大会について

2027 年度の第 52 回大会については立教大学新座キャンパスで実施されますが、日程については 5 月 22 日（土）、23 日（日）で調整しています。正式に決定されましたら、改めてお伝えいたします。

（庶務担当事務 高木竜輔）

2. 研究委員会からの報告

今期の研究委員会に関して、前島訓子（愛知淑徳大学）、仙波希望（金沢大学）、畑山直子（大正大学）、岡田航（尚絅学院大学）、伊藤嘉高（新潟大学）の 5 名に加わってもらうことになりました。前号で紹介した 8 名の委員とあわせて 13 名体制で今期の研究委員会を進めて参ります。

7 月 26 日（日）13 時半より 2026 年度第 1 回研究例会を立教大学で開催しました。その際、以下の研究方針をご提案しました。「more than human community studies : X 新世の地域社会学」です。

この 10 年、リスケーリング、災害対応、地方創生、地域移動、環境適応が主題化されてきました。人口減少や気候危機、新自由主義や権威主義の浸透の下、人新世や資本新世などさまざまに転形/社会移行が触知されるなか、地域社会学固有の対象や方法の共有があらためて求められています。地域という視点を置くとどのような視界が開けるのかを隣接領域や隣接言語による知見とつぎ合わせながら見極める 2 年にしたいです。このような国際的・学際的な文脈設定は、2027 年に開かれる ISA 光州大会にむけ機運を高める意図もあります。

その際、more than human community studies を掲げ 2 つの more than を目指したいです。1 つは community studies を超えることです。われわれ地域社会学会は国家独占資本主義の地

域への矛盾の蓄積の批判的考察から出発しました。その拠り所として **community** を見出してきた側面もあります。だからこそ **Japanese Association of Regional and Community Studies** を称してきたとも言えます。そのうえでグローバル資本主義、ネオリベラリズム、権威主義が国内外あらゆる地域に浸透しつつある今こそ再度、資本主義批判の旗を共有したいです。それは何のための **community studies** なのかを問うことでもあります。そしてそのとき **community** という概念が資本主義の対抗概念として有効なのか、学統を賭けるに足る問いではないでしょうか。

もう1つは **more than human** です。**community** を再考するとき、ほんとうに人間だけでよいのでしょうか。機械、AI、さまざまな生き物、中型哺乳類に限らず微生物や細菌まで、どう想像力を広げられるでしょうか。気候危機、人新世というフレームが専門家や一部の **the woke** から押しつけられたと感じる人びとが、権威主義、ポピュリズムの担い手になって民主主義そのものを揺るがせています。それに対抗する実践を掘り起こすためにも **more than human** は賭けるに足らないでしょうか。これまでの地域社会学における地域はあまりに人間中心的すぎたかも知れません。その反省を糧に今一度、**more than human** という視点から地域概念そのものも再構築しなおす運動にみなさんの参画を希うものです。

そのうえで第1報告は矢部拓也さんと原田峻さんから先だつての大会シンポジウムを総括していただき、第2報告は中澤秀雄さんから今期の研究テーマの序奏となるご報告をいただきました。後者の内容は別途、地域社会学学会ジャーナル 27 号でご確認ください。

また理事会と例会の間の時間で研究委員会を開催し、今後の研究例会のテーマと報告者について議論させていただきました。

今後の主な研究例会の予定は以下のとおりです。

第2回 2026年10月3日（土）東洋大学「2つの淡路」前島訓子さん、林凌さん

第3回 2026年12月13日（日）名古屋大学「国際交流委員会と共同して（仮）」

W・Johannes さん、T・Thelen さん

第4回 2027年2月14日（日）東京大学「モノと向き合う（仮）」伊藤嘉高さん、武岡暢さん

なお次期大会シンポジウム（5月22、23日@立教大学）は「地域社会学の見え姿から未来を見晴らす（仮）」と題し、報告者として祐成保志さん、S・Polak-Rottmann さん、金知榮さんを予定しております。

（研究委員長 平井太郎）

3. 編集委員会からの報告

本年度第1回編集委員会を7月22日にオンラインで開催しました。年報39集の編集作業の手順やスケジュールの確認、特集のテーマと論文の確定、書評対象図書や執筆者に関する検討などを行いました。

また編集委員に、木田勇輔会員（中京大学）、辻岳史会員（国立環境研究所）、友澤悠季会員（長崎大学）、山口博史会員（徳島大学）が加わり、計10名となりましたことを、あわせてお知らせします。

前号でお知らせしましたが、年報第39集（2027年5月発行予定）の原稿募集について再掲します。下記の要領に従って、積極的な投稿をお願いします。自由投稿論文は、他のカテゴリーに比べて締め切りが早いのでご注意ください。〈ビューポイント〉〈名著再発見〉〈研究紹介〉の各カテゴリーについても投稿をお待ちしています。いずれも電子ファイルのみの提出になります（郵送での提出は不要です）。投稿規定・執筆要領・著作権規定をご確認のうえご投稿ください。

<年報第39集原稿募集要領>

1. 自由投稿論文：タイトル・執筆者氏名・本文・図表・注・引用文献を含めて、年報掲載時に14ページ以内（1ページは41字×38行で1,558字）に収まるものとします。編集上必要なデッドスペースを差し引いて、上限字数は21,402字（41字×522行）です。図表等については編集上十分なスペースを確保してください。なお英文要旨は掲載決定後に、300語以内で作成して頂きます。自由投稿論文の締め切りは **2026年9月30日（水）必着** です。

2. 書評（依頼）／自著・自訳書・編著書紹介（依頼）／研究紹介：タイトル・執筆者氏名・本文を含めて、年報掲載時に 2 ページ以内となる 2,870 字（41 字×70 行）に収まるものとします。原稿の締め切りは 2026 年 10 月末日です。
3. ビューポイント／名著再発見：タイトル・執筆者氏名・本文を含めて、年報掲載時に 4 ページ以内となる 5,986 字（41 字×146 行）に収まるものとします。原稿の締め切りは 2026 年 10 月末日です。
4. いずれの原稿も E メールへの添付ファイルにて電子ファイルでご提出ください。メール本文に氏名・住所・電話番号・電子メールアドレスを明記してください。
5. 「執筆要領」で明文規定している以外のルールは『社会学評論スタイルガイド』に準拠することになります。この点、くれぐれもご注意ください。
6. 自由投稿論文については、300 語程度の英文要旨を掲載することになります。英文要旨は、編集委員会で論文審査が終了した後に提出して頂きます。英文校閲は編集委員会でおこなう予定です。
7. 原稿の提出先（編集委員長・丸山真央）E-mail: maruyama.masao.hus [アット] osaka-u.ac.jp ←[アット]を@に変えて下さい。

（編集委員長 丸山真央）

4. 地域社会学会賞選考委員会からの報告

2026 年度の学会賞の選考が始まっております。前号でもアナウンスをしましたが、253 号でも改めてお伝えしたいと思います。

- (1) 地域社会学会賞には、以下の 5 種類の賞があります。
 1. 学会賞
 - ①個人著作部門、②共同研究部門
 2. 奨励賞〔大学院修士課程修了 15 年以内の者を対象〕
 - ③個人著作部門、④共同研究部門、⑤論文部門
- (2) 対象業績は、2025 年 6 月 1 日から 2026 年 5 月 31 日までに刊行された業績です。
- (3) 推薦期間は、2026 年 8 月 1 日（土）から 9 月 30 日（水）の間です。
- (4) 推薦委員による推薦のほか、会員の自薦・他薦もあります。選考委員長の新原道信宛に **2026 年 9 月 30 日（水）必着** をお願いします。自薦の場合は、刊行物 1 点も送付してください。
- (5) 送付先 E-mail: sardo.87k [アット] g.chuo-u.ac.jp （[アット]を@にしてください）
 郵送：〒192-0393 東京都八王子市東中野 742-1 中央大学文学部 3 号館 3804 新原道信宛
 (TEL: 042-674-3804)
- (6) 推薦にあたっては、学会賞規定に沿った基準で選んでいただき、以下を記してください。①学会賞、奨励賞の区別、②対象研究成果の題目、発行年月日、発行所あるいは掲載雑誌名・巻号、③著者・编者・編著者の氏名、所属、職位・学年次、奨励賞の場合は修士課程修了の有無と修了年月（詳細不明の場合は事務局で調査します）、④推薦者氏名、⑤推薦理由（300 字以内）。Mail の場合は、word ファイルをお願いします。
- (7) 2026 年度の選考委員（8 名）は、新原道信（重任）、吉野英岐（重任）、丹邊宣彦（重任）、小浜ふみ子（重任）、清水亮（重任）、清水洋行（重任）、文貞實（重任）、二階堂裕子（新任）。委員長は新原が務めております。推薦委員（8 名）は、任期中（2 年間）は非公開で、任期の終了後に「会報」で公開しています。

（学会賞選考委員長 新原道信）

5. 国際交流委員会からのお知らせ

(1) ISA 第 21 回大会 エントリーについて

2027 年 7 月 4 日から 10 日まで韓国の光州で開催される、ISA World Congress of Sociology 第 21 回大会の Abstract Submission が開始されております（もちろん RC21 も含まれます）。アブ

ストラクト送付の締切は 10 月 14 日までとなっております。詳細は以下の URL をご覧下さい。
<https://www.isa-sociology.org/isa-events/xxi-world-congress-of-sociology/call-for-abstracts>

(2)Vereinigung fuer sozialwissenschaftliche Japanforschung 研究報告募集

ドイツ語圏を中心とする現代日本研究の学術団体 Vereinigung fuer sozialwissenschaftliche Japanforschung (VSJF: 現代日本社会科学学会) の「社会学・社会人類学」部会より、研究報告の募集が出ていますので、情報共有いたします。

日本に関する社会学・社会人類学および関連する社会科学分野の研究を対象とする、英語によるハイブリッド・ワークショップです。研究途上の報告も歓迎されており、若手研究者の報告が特に奨励されていますが、キャリア段階を問わず応募できます。

日時: 2026 年 11 月 14 日 (土)

会場: ウィーン大学 / オンライン

使用言語: 英語

報告時間: 20~30 分

要旨: 500 語以内

応募締切: 2026 年 9 月 15 日

応募先: sociology@vsjf.net

現地参加する若手報告者には、渡航費等の助成も用意されています。応募の際には、現地参加 / オンライン参加のいずれを希望するかを明記してください。応募詳細は以下のリンク先よりご確認ください。

<https://soziologie.de/call-for-papers/news/article/default-0b2de456e9f88a3976b09e125812449f>

主催団体: <https://vsjf.net/die-vsjf/fachgruppen/fachgruppe-soziologie-und-sozialanthropologie/>

ご関心のある方は、ぜひ応募をご検討ください。

(国際交流委員長 武田俊輔)

6. 社会学系コンソーシアム担当からの報告

今期において社会学系コンソーシアムを担当する矢部拓也です。どうぞよろしくお願いいたします。今期の委員は私の他に山岸達矢会員とともに活動していくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。

(担当理事 矢部拓也)

7. 講座編集委員会からの報告

会報 252 号にてお知らせしたスケジュールにて、地域社会学講座（東信堂より刊行）の企画が進んでおります。今号では、本講座の発行主体となる組織体についてお知らせいたします。

第 51 回大会総会で承認された理事会提案資料においては、この組織体を「ワーキンググループ」と呼称すると理解できるような記述がありました。この点につき、7 月 26 日に開催された理事会において前期からの継続理事（前庶務理事を含む）に確認したところ、「ワーキンググループと称するのは前期理事会期までであり、その後については編集委員会等の名称に移行することが意図されていた」との回答が得られました。

これを受けて、7 月 26 日理事会において会則 12 条 4 項に基づく委員会として「講座編集委員会」を設置することを担当理事より提案し、承認されました。講座編集委員会は、上記講座本が刊行されるまでの時限的委員会となります。9 月末までに、講座編集委員会より執筆者に正式なご依頼を差し上げることになりますので、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

(担当理事 中澤秀雄)

8. GEAHSS からの報告

GEAHSS（人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会）からの依頼にたいする地域社会学会としての対応は以下のとおりです。

- (1)前期理事会において会員にアナウンスされた GEAHSS による 2028 年実施予定の「第 3 回人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査」の調査項目に対する意見はなかったので、GEAHSS には回答しませんでした。調査項目のご検討をありがとうございました。
- (2)GEAHSS から回答依頼のあった「GEAHSS 加盟学協会におけるハラスメント関連規程等（規程、規約、要綱、ガイドライン等）・体制に関するアンケート」にたいして、地域社会学会ではハラスメントに関する規程等（規程、規約、要綱、ガイドライン等）として「地域社会学会倫理綱領」があり、学会 WEB サイトにおいて公開していること、相談窓口やハラスメント申し立て関係の手続きについて明文化していないこと等を回答しました。
- (3)GEAHSS より第 12 期の副幹事学会（前後の期を含む計 3 回の役員）を担当する加盟学協会の募集案内がありましたが、応募しないことになりました。

以上についてご意見等ございましたら、担当理事までお寄せください。

（担当理事 藤井和佐）

9. 会員異動（敬称略）

新入会員、退会会員、会員資格喪失者、終身会員について、以下の通りです（以上、2026 年 7 月 26 日理事会で承認）。

<新入会員（敬称略）>

林田朋幸（帝京大学）「山村社会、農林地管理」（紹介者：福田恵）

鄭馨（千葉大学）「日本地域社会における住宅困難を抱える若者への居住支援について」（紹介者：清水洋行）

大崎哲也（北翔大学）（紹介者：高木竜輔）

野邊八重子（新潟大学大学院）「豪雪地帯における高齢者の運動習慣と幸福度に関する研究」（紹介者：野邊政雄）

西本千尋（立命館大学大学院）「都市再開発下における日常実践と共同性の変容——板橋区大山地区を事例として」（紹介者：片平深雪）

PI RUI「豪雪地帯における高齢者の運動習慣と幸福度に関する研究」（東京都立大学大学院）
「ローカル・ガバナンス形成のプロセス追跡分析」（紹介者：山本薫子）

宮地俊介（國學院大学）「コミュニティ概念の知識社会学」（紹介者：辻井敦大）

佐々木隆夫（西九州大学）「人口減少社会における地域共同体の形成・維持・再編過程」（紹介者：高木竜輔）

<退会会員>

佟岩

河原晶子

熊谷苑子

<ご逝去>

高橋明善

（庶務担当理事 高木竜輔）

10. 事務局からの報告

(1) 会費納入状況

2026 年 7 月末時点で 2026 年度分の会費は 196 人分が納入されており、終身会員を除く会員 381 人に対する納入率は 51.4%でした。

(財務担当理事 庄司知恵子)

(2) 会報 253 号の発行

学会 HP にて会報 253 号（今号）が発行されました。

(庶務担当理事 高木竜輔)

11. 事務局からのお願いとお知らせ

(1) 2026 年度会費納入のお願い

2026 年度の会費納入について、未納入の場合は納入をよろしくお願いいたします。2023 年度より Smoosy によるクレジットカード決済を原則としています。

なお、諸事情により郵便局での払い込みを希望される方は、郵便局の窓口備え付けの青い払込用紙に、口座番号（00150-2-790728）、加入者名（地域社会学会）、会員ご本人の氏名・ご住所と、通信欄に「2026 年度会費」を明記の上、会費（一般会員 6,500 円、院生会員 5,000 円）のご送金をお願いします。

2026 年度分の会費の振込確認ができた会員には『地域社会学会年報』第 38 集をお送りしています。

(財務担当理事 庄司知恵子)

(2) 学会旧 HP の廃止について

すでに学会メーリングリストにてお伝えしているように、学会旧 HP（さくらインターネット）について廃止し、新 HP（Smoosy）に一本化しております。会員各位におかれましてはブックマークの変更などよろしくお願いいたします。

(庶務担当理事 高木竜輔)

(3) Smoosy を用いたメール配信への切り替えについて

これまで地域社会学会では Google のメーリングリスト機能を用いて会員への情報提供を行ってまいりました。ただし会員へのメール不達など問題も生じていました。他方、Smoosy には会員へのメール配信機能があるため、事務局ではこちらに切り替えることを理事会に提案し、承認をいただきました。今後において Smoosy を経由した例会案内などを行っています。

この点について会員みなさまへのお願いです。Smoosy に登録しているメールアドレスをいま一度ご確認いただき、修正などあれば各自でご対応ください。こちらに登録されているメールアドレスが使えない場合、配信されませんのでご注意ください。

(財務担当理事 庄司知恵子)

(4) Smoosy における各種情報の変更について

年報発送時において毎年数件ほど未達で帰って来たりするなどございます。(3)の点でもお願いしたように、所属先や住所などの変更がありましたらすみやかに Smoosy における情報を変更してください。そのほか会員資格に関しての変更（院生会員から一般会員への変更）などについても御協力ください。よろしくお願いいたします。

(庶務担当理事 高木竜輔)

(5) 会員の研究成果情報の提供のお願い

2025 年以降の研究成果に関する情報を募集しています。用紙（地域社会学会 HP サイトからダウンロードできます）の情報を、事務局宛のメールでお送りください。ご協力よろしくお願い致します。万一、情報を提供したのに掲載されていないなどの手違いがございましたら、事務局まで御一報くださいますようお願い致します。

（庶務担当理事 高木竜輔）

12. 理事会のご案内

2026 年度第 3 回理事会

日時：10 月 3 日（土）10：30～12：30

東洋大学白山キャンパス 6 号館

（対面と Teams によるハイフレックス形式）